

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地44		
自己評価作成日	平成22年7月13日	評価結果市町村受理日	平成22年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200485&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ハートフルでは、職員・家族・併設施設・協力医との連携強化に努めている。特に、協力医とは24時間・365日の連絡体制を整え、体調不良時や緊急時の往診等にも対応していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、小高い場所に立地し、自然の空気・風がとても心地よく、季節を感じて暮らせる環境にある。併設施設の他には民家がなく、施設一体を地域としてとらえることができる。そのため、併設する施設との協力体制が整っている。協力医は24時間体制で、往診などの対応があり、終末期の対応を本人・家族・医師などと相談し、受け入れる体制を整えている。自然豊かなホームで、ゆったり安心して暮らせる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福祉の原点は、サービスである。サービスに徹するの基本理念の元、部門目標を設定し、各自が個人目標を持ち実践出来る様、年2回目標に対しての振り返りをしながら理念を共有している。	法人が定める「福祉の原点は、サービスである。サービスに徹する」の理念の下、ホームの目標と職員個人の目標を定めている。理念の実践が職員の頑張りの素となっている。	法人の定める理念の下に、ホーム独自の理念を設定し、「グループホーム」ならではの良さをより一層発揮されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアに訪問を依頼。利用者との交流・生活の活性化に向けて活動している。また、運営推進会議開催の際は民生委員に参加を呼びかけ、グループホーム活動の理解に努める。	近隣に住宅地がないため、「地域」というものを、ふるさと・なじみの場所・以前住んでいた場所など幅広くとらえ交流している。また、地域のボランティアの訪問を運営推進会議に図って受け入れている。	「地域」を幅広くとらえ活動しているが、ホームが存在する地域と密着してつながる手段として昨年の目標であった新聞作りを実践するなど、再度検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元福祉系の大学実習生の受け入れをしています。又地域の小・中・高等学校よりボランティア活動も受け入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時は、利用者様やご家族も参加して頂き意見など伺います。年5回開催。同時に「家族会」を開催し、御家族と利用者、職員との交流を図る場としている。	年に5回の運営推進会議が開催されている。家族会を同時開催することによって、運営推進会議に利用者や家族が多く参加し、意見や要望を伝えている。外出が容易でない利用者のために、地域のボランティアを受け入れ、交流を図ることも、この会議が活かされた例である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	5回/年運営推進会議への参加、又家族会行事参加案内を送付している。市担当者の参加により、運営に関わる様々な情報などを得る事ができる。	運営推進会議には、毎回、市担当者が出席している。新しい情報や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーの設置し、人の往来を把握している。日中は施錠をしていない。	玄関は夜間のみ施錠している。日中は、職員がさりげなく外への出入りを見守っている。身体拘束をしない実践例として、車いすは移動時のみ使用し、テーブルにつく際には椅子を利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	パンフレットや制度の説明などを玄関に掲示し、又相談を受ける時は、パンフレットなどで説明している。 内部・外部研修の実施。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修を受け全体会議にて発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族、利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明し、家族に同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、市役所より苦情相談員(2名)の来所があり、明るい雰囲気を作って話しやすいようにしている。	家族からの要望や意見は、面会時や電話で受けている。その都度、日報や申し送りノートに記録して、職員に周知できるようにしている。運営推進会議でも話し合う議題にしている。週1回の外出行事は、家族からの意見を反映し、実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回グループホーム会議で、職員より利用者様の状況を取り上げ、討議している。	管理者は、日頃より職員の意見や要望を多く聞くよう努力している。月1回のホーム会議では、活発な意見交換が行われ、運営に反映させている。決定事項は、後で確認できるよう、申し送りノートに記入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月職員は、希望休の申請が可能(3日以内)。また、法人目標にそった部門目標をたて各自の個人目標を設定することで、職員の「やる気」をひきだす取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数に応じた外部研修計画がある。また、毎月一回の内部職員研修の参加により、知識の向上・習得を目指す。業務時間内においてのOJTの実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、意見交換をして交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話しが出来る様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービスを受けておられた方も多いため、居宅サービス提供中にグループホームの職員が声を掛けて様子を伺ったり、他職員より情報をもらいながらしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで期間がある時は、電話で様子を伺い相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや、季節の食べ物、畑で収穫したやさいを使った食事、週に一度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて共に生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には運営推進会議委員として参加して頂き、職員と共に利用者様に安心・安全な生活を送って頂ける様な関係を築いている。 また、「家族会」を併用して開催。交流の場として活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設するサービス利用者であった方には、なじみの人が来所の際に面会し、交流が持てるような場を創出している。 また、地域にあるなじみの店・場所を大切に、定期的に訪れる事が出来る様に計画をしている。	ホームの立地条件から、利用者自身が歩いて交流することができないため、馴染みの店や以前住んでいた場所などの訪問を計画し、実践している。併設する施設に、友人や馴染みの人への面会に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方それぞれの相性や性格を考慮して、食卓の座る場所や居心地のいい場所を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族の方より、「退所後も訪問したい」との申し出を頂いた。退所後も、他の利用者や職員との交流が継続するような配慮を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまでに、ご家族との電話連絡をとり、想いを把握するように努めている。また、暫定プランを作成する時にもお聴きしている。	日々の会話の中から利用者の希望や意向を聞き取るようにしている。意思疎通ができない利用者については、本人の言動・家族からの聞き取りや職員の意見などから総合的に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特にご家族やご本人より生活歴をじっくり伺い、記録。ケアカンファレンスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後、暫定プランから本プランまでの間に、生活経過記録をしっかりと記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で、ご本人の想いや希望などを伺い、担当者、ご家族、ケアマネ、医師とも相談しながらご本人の意見を反映出来るよう個別に検討し、介護計画の作成をしている。	利用者の担当を決めていることで、より細かな把握に努めている。利用者本人・家族・職員が話し合っって介護計画を作成している。必要な場合はかかりつけ医にも意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング・カンファレンスを実施。変更点や気づいた点を話し合い、情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の応援を受け、急な受診等対応している。特養の看護師も、24時間体制に関して対応している。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受けることがある。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、フラダンス・マジックショーなどを開催。利用者に楽しんでいただけるような機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診を希望される方はそのように対応している。特に無い方には、往診がして頂ける協力医に依頼している。	利用者・家族がかかりつけ医を決めている。協力医をかかりつけ医に希望する利用者も多い。往診の際には、日頃の様子を医師に伝えている。家族による受診は、日頃の健康状態を家族に伝え、受診結果の報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設・特養の看護師に随時報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は、看護師が、連携により、健康管理等に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者が出た場合、管理者または、副主任が1回/週は面会に伺い、家族より状態を聞き、また病院関係者への情報交換などをして、家族、利用者の相談など対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医に24時間・365日連絡を取れるよう協力して頂き、又、併設特養看護師にも24時間連絡をとれる対応をした。ご家族には、夜間付き添い等協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と連携しながら終末期ケア実行の体制を整えている。	協力医は24時間365日対応し、協力・連携の関係が築かれている。利用者本人の意向・家族の理解と協力・医師の連携など十分な話し合いの下、重度化や終末期ケアの実践を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAEDの操作・心配蘇生法訓練を行う。また、運営推進会議を活用し、職員・御家族共に定期的に習得できる機会を創出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で2回/年、避難訓練の様子を見学・参加して頂き、緊急時には協力・連携できる態勢を整えている。	ホームで年2回の避難訓練を行い、運営推進会議の参加者が見学している。夜間を想定した避難訓練も実施している。併設施設との全体の消防訓練が年2回あり、参加している。併設施設との協力体制が整っている。	災害時には地域の避難場所として施設を提供するなど、ホームが地域と密に連携できることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格・心情・体調など、個別性を重視した声掛けを行っている。個人情報に関しては、法人が、5大原則を定めている。	利用者の言動やしぐさを職員がよく理解して接している。法人が定める個人情報に関する5大原則の下、利用者一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常にご本人の意に添ったケアを心掛けている。また、常にオープンクエッションの声掛けに留意し、利用者中心の生活援助を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や季節、また、ご本人の体調に応じて意見や希望を傾聴し、個々の「その人らしい生活」を組み立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問美容室を利用して頂いている。また、定期的に行きつけの床屋へ送迎を行っている利用者もいる。 衣服もご本人の希望を伺い、重ならないような配慮を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の盛り付け、テーブル拭きなどを行っている。また、食後の後片付け等を行って頂き、「自分の役割づくり」に考慮した支援を実践している。	利用者のできることを職員が理解しており、気持ちよくその力が発揮できるような言葉かけをしている。盛り付け・配膳・下膳など利用者の能力にあった「自分の役割」を発揮してもらうよう実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理時には、栄養バランスを考え、献立も同じような物が、重複しないよう気をつけている。 また、個々に合わせて調理方法を工夫し、食べ易い状態を思案している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアに加え、昼食前に手洗いと一緒にうがいも行っている。		

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄のパターンに合わせた時間帯のトイレ誘導を行っている。 また、排泄チェック表を活用し、個々の時間・傾向に配慮した体勢を整えている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導している。また、排便状態の変化も見落とすことのないよう、申し送りノートを活用して状態を職員が共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立、食材やメニューを考えて提供している。高齢者でも食べ易い形態に配慮し、消化のよい食事を心掛けている。 また、犬の散歩や特養への散策など運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日の気分や体調で変更し、臨機応変に対応している。また、入浴剤を活用し、「温泉気分」を楽しんで頂いている。	利用者の希望に合わせて入浴できるよう体制を整えているが、現状は身体機能が低下している利用者が多く、2～3日に1回入浴できるよう支援している。職員2人体制で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の気分や体調に応じてリクライニングソファで休息したり、居室で静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬してる。 新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している（一部利用者）。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には、定期的な外出支援をしている。また、利用者同士の交流が深まるような場を作り出す工夫をしている（折り紙・塗り絵など）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設内で行われる定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。 御家族との相談・協力を得ながら、外出支援を実践している。	外出は、利用者の希望を聞きながら計画的に実践されている。家族と外出することもある。併設施設の行事に参加することで、外出気分を味わってもらっている。庭を散歩することが出来る人には、散歩を日課にしてもらっている。	

岐阜県 グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には管理して頂き、買い物の際は自分で支払って頂いている。また、買い物先では「自分で選ぶ喜び」を優先し、本人の希望を傾聴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合・要望を入所時に伺い、機会に応じて電話をかけさせて頂いている。また、ご家族から届いた手紙は、職員が読み聞かせを行うなど、交流の機会に活用させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りでフロアが広く、自らがお気に入りの場所でゆっくりと過せるような配慮を行っている。 自然に囲まれた環境で、四季折々を味わいながら暮らすことができる。	風通しがよく、網戸にしてホーム内に自然の風を入れている。自然の風景がよく見える間取りであり、季節を感じることができる空間となっている。ソファやいすが随所に置かれ、畳のスペースもあり、好みの場所でくつろげるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、ソファや椅子が、点在しており、自分の好きな場所で、気の合う仲間と自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用していた愛用の身の回り品を持参していただいている。本人が落ち着ける空間作りを心掛けている。	ベッド・ダンス・カーテンは、ホームが用意している。家族の写真や趣味の作品・TVなど、愛用品を持ち込んでもらい、居心地のよい空間作りをしている。部屋の入り口には職員が手作りの暖簾が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆっくり、優しく、声掛けをしている。 ご本人の目線・意欲、能力に合わせた環境を整えて、自立した生活が送れるよう支援している。		